

にしん漁場建築 小樽市鯉御殿

■物件名：にしん漁場建築「小樽市鯉御殿」(ミュージアム)

■住所：祝津3-228

■電話：22-1038

■所有者：小樽市

■運営者：株式会社小樽水族館公社（指定管理者）

■人員：本間宏信ほかスタッフ5名

■建物履歴

明治30年 田中家番屋

昭和33年 北海道大博覧会を開催するに際し、北海道炭
礦汽船が創立70周年記念事業の一つとして泊
村にあった田中家番屋を移築

昭和33年 小樽市に寄贈

昭和35年 北海道有形文化財指定

平成16年 指定管理委託

※田中家番屋

田中福松は青森県東津軽郡蓬田（よもぎだ）村大字広瀬
の田中吉兵衛の次男。安政元年（1854）叔父忠兵衛の雇丁として漁業に
従事すること3年、泊村で刺網から建網に進め、毎年の豊漁で10万坪の
水田、数万坪の山林を買い、立派な邸宅を構える。明治27年日清戦争か
ら明治30年代にかけて、北海道泊村を中心として15ヶ統を経営。

■外観

①天窓／大屋根中央の切妻造りの天窓。②庇／伽藍調を帯びた大屋根の庇。

■内観

①梁と柱／道産木材や東北から取り寄せた檜を使用した梁と柱。70%がタモ材使用。

■内容

にしん漁やにしん加工に使われた道具や、番屋で暮らした人々の生活用具や写真などを展示。

■コンセプト

小樽市博物館にレクチャーを受け、来館のお客様にガイドを徹底。

■客層

観光地祝津を代表する建物で、北海道の歴史ほか、鯉漁や建造物に関心がある方が多く訪れる。



外観



大広間



2階大広間



床の間



祝津の町が一望



縁側のまどろみ

にしん漁場建築 小樽市鯨御殿



漁具をうかがう



生活道具をうかがう



帳場をうかがう



絶景を眺望



纏をうかがう



二重庇



重層な梁構造



天を仰げば歴史が



階段にも欄間が



ネダイ



玄関から迫力の梁



敷居にも意匠



欄間にも気遣い



鯨ミュージアム

